

「日本人の臨死体験と臨死体験後に辿る過程—20事例における質的研究の結果から—」

発表者：明治大学大学院情報コミュニケーション研究科博士後期課程 岩崎美香

1. 臨死体験とは何か

「典型的には死に近づいた人、もしくは生理学的または情緒的な強い危機の状況にある人に起こる、超越的で神秘的な要素を帯びた心理的な出来事」(Greyson, 2000)¹

昏睡状態に陥った人の約4割、心停止から蘇生した人では約2割から報告

体験内容には文化や個人的背景を越えた共通性

死に隣接した体験としての「死後存続」問題 原因論 (etiology)

2. 日本人の臨死体験

1980年代後半から事例収集や研究が行われるが、1990年代後半をピークに停滞。

2008年から調査を開始し、20事例の臨死体験 (表1参照)

前半：移行・移動、異世界体験、何らかの存在との遭遇／後半：留まらない事態の発生

・西洋圏の臨死体験との共通点：トンネル、体外離脱、人生回顧、人物、異世界の5要素有

・西洋圏の臨死体験と異なる内容：境界としての川の出現の頻度、超越的存在との関わり

ただし、危機状態への生理的反応に基本的枠組みか (解離現象との類似)

脳内現象にとどまらない側面→「私」の多層性と身体の範囲を超えた知覚

3. 臨死体験後に辿るプロセス

臨死体験後の変化 (事後効果：aftereffects)

20事例中、18事例が臨死体験後に何らかの変化。臨死体験後には困難を抱える場合も

臨死体験後のプロセスの検討 (M-GTAによる) (図2参照)

2つの並行した展開の方向性

・臨死体験を日常の中で整理し、意味づけていく方向性

・臨死体験後に生じた変化を整理し、意味付け、さらに調整していく方向性

* 「身体や感覚の変容」は信念体系の変化と異なる展開

日常への適応に留まらない非日常的体験を日常へと還元していくプロセス

米国での臨死体験後の困難に関する調査研究 (Stout, Jacquin, Atwater, 2006)²とも共通性

臨死体験に限らず、日常の外側の世界に触れて、拡大した自己意識や世界観、変容した身体や感覚をどう扱うかという問題についての手がかり

¹ Greyson, B. (2000). Near-Death Experience. Candeña, E., Lynn, S.J., & Krippner, S.C. (Eds.) Varieties of anomalous experience: Examining the scientific evidence. Washington, D.C.: American Psychological Association, 315-352.

² Stout, Y.M., Jacquin, L.A., Atwater, P.M.H. (2006). Six major challenges faced by near-death experiencers. Journal of Near-Death Studies, 25 (1), 49-61.

表1 体験者と体験内容の概要

事例	性別	調査時の年齢	体験時の年齢	体験時の属性	きっかけ	体験内容の概要
A	男性	15歳	10歳	小学生	高熱が2週間継続	マントを着た顔のない女性とエレベーターに乗った。エレベーターが開くと、周囲は明るく、赤や黄色の花々が見えた
B	男性	41歳	28歳	メーカー研究員	心臓発作	倒れて真っ暗になり、気がつくと自分の体を斜め上から見下ろしていた。「死ぬのはいやだ」と思った瞬間、真っ白な光に照らされ、自分の体に戻った
C1	男性	41歳	13歳	中学生	脳髄膜炎	自分が寝ている姿を見た。また、何度も天井の方向へ昇っていくことを繰り返した
C2	男性	41歳	26歳	映像制作者	肺水腫	観音様のような女性が招くかのように現れた。招きを断ると、女性が憤怒相になった
D	男性	28歳	6歳	幼稚園生	扁桃腺の手術	薄暗い光で照射されたドームのような部屋の天井から、ベッドに横たわる自分を見ていた
E	女性	62歳	49歳	パート勤務	交通事故	花が両脇に咲く白い舗装道路をずっと歩いていて、最後にお葬式の花輪のところで行き止まった
F	女性	48歳	26歳	主婦	出産	天井が落ち、強い光で周囲が真っ白になった。花畑とそこに流れる小川が見え、満面の笑みを浮かべた3人の人が立っていた。行こうとしていたら、母親の声で我に戻った
G	女性	61歳	20歳	大学生	高熱が継続	周りの人に話かけても反応がなかった。振り返ると、布団に寝ている自分の姿があった
H	女性	69歳	69歳	主婦	脳静脈瘤の手術	川の向こうで父が自分を呼んで手招きし、母は川のずっと下流で自分に背を向けて立っていた
I	男性	45歳	13歳	中学生	池で溺れる	池の底から出る光の中に入ると、太陽が6つある他の惑星に生まれ変わり、そこで一生を生きる体験をした
J	女性	57歳	30歳	小学校教師	急性腎不全	遠くに星のような光が輝く、宇宙空間のような奥行きのある暗がりの中に漂っていた
K	女性	73歳	30歳	主婦	卵巣のう腫の手術	水平方向に伸びる円錐型のトンネルに吸い込まれ、奥に行く手前で引き戻された
L	女性	80歳	67歳	自営業	急な血圧の上昇	一面輝くような花の咲く場所で、川の向こうから父に呼ばれ、伯父には来るなど言われた
M	女性	64歳	23歳	大学生	心臓発作	夜中にお手洗いで出たら、廊下の突き当たりのところが、金色に輝く坂道になっていた。音楽が聴こえ、よい香りが漂う中、坂道を登っていくと、突然真っ暗になった
N	女性	56歳	35歳	会社員	甲状腺機能亢進症	オレンジ色のポピーのような花が咲いている花畑に行った。行けども行けども誰にも会わず、「飽きたな」と思った頃に、下から呼ぶ声があった
O	女性	33歳	15歳	中学生	自動車事故	最初に人生を逆行する走馬灯体験をした。場面が切り換わり、長いトンネルの中を歩いていると、その先から当時好きだったバンドのメンバーに手招きされた。目を覚ました時に、真っ白な光が人や物へと分けられていくのを見た
P	男性	56歳	46歳	プロミュージシャン	抗生物質のアレルギー反応	周囲の人、遠方の人も含め、その時何をして何を感じているかがわかった。明るくて暖かい色をした光が見え、そこに行きたくなくなった
Q	男性	41歳	21歳	大学生	腹膜炎の手術	身体が左右に横揺れした後に、気がつくと天井近くにいた。下には集中治療室のベッドに横たわる自分が見えた。体の痛みはなく、そのまま部屋の中でしばらく空中遊泳を楽しんだ
R	女性	52歳	30歳頃	主婦	インフルエンザによる高熱が継続	家の前のバス停からバスに乗ったところ、山の中のビルに着いた。ビルの外階段の踊り場から下を眺めると、キラキラ光る川の真ん中に、濃いブルーのラメの服を着た若い男が、岸にいる人の手を取って一人ひとり川の向こうに渡るのが見えた
S	女性	51歳	20歳	大学生	薬物の過剰摂取	目の前にムククの「叫び」の絵のような眼の落ちくぼんだ人の顔が見え、耳元でジェット機のエンジンの隣にいるようなゴォーという轟音が聞こえた。気がつくと、ホテルか病院のような場所のエレベーターホールの上から、キャスター付きのベッドで運ばれていく自分らしき姿を見ていた

※c1とc2は2回臨死体験をした同一人物

図1. 臨死体験全体のプロセスの推移

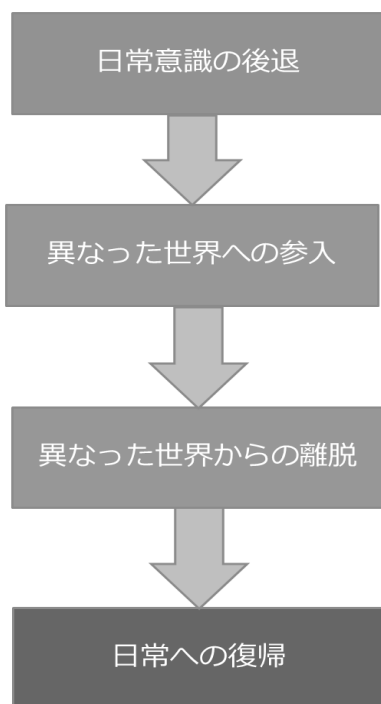


図3. 臨死体験者が直面する6つの主要な困難

	困難の種類	内容
困難1	現実の根本的な転換を扱う	予期せぬ突然の現実に対する転換を体験して、生、死、死後、身体、心、魂についての新しい概念を伴って戻ってくるが、臨死体験やそこから示唆されることを受け入れるのに多くの時間を費やす。
困難2	戻ってきたことを受け入れる	現実よりもリアルであった臨死体験の中で、純粋で無条件の愛を感じ、本当の故郷や究極の場所へ行ったと感じた。死への恐怖を強く否定し、時がくればそれを喜んで享受すると考えるようになる。再びそこに戻りたいとか、ホームシックを感じるなどする。
困難3	体験を分かち合う	自分で体験を受容するだけでなく、起きたことに対処したり、理解するために他人と分かち合うことが重要性を持った。体験を分かち合う時に、①言い表しがたい体験を表現する、②誰に打ち明けるかを選ぶ、③否定的な反応に対処する、④話す相手に関心を合わせる、といった困難に直面する。
困難4	新しいスピリチュアルな価値基準を世俗的な期待と統合する	新しいパラダイムと以前の人生とを適合させることを強いられる。生活の主要部分に摩擦が起こり、転職、離婚、所属宗教コミュニティからの遠ざかりが生じることもある。心身をケアする仕事に従事したり、臨死体験者の自助グループの活動に関わるようになる。
困難5	高まった感受性と超常的な能力を調整する	他人の強い感情やネガティブな行動に敏感になったり、五感の知覚の増大や、直感能力、ヒーリング能力、テレパシーなどの超常的な感覚が出現する。高まった感受性や超常的な能力をうまく生活やキャリアに組み込むこともあるが、どう扱ってよいかわからず能力を開ざしたり、忙しさに紛らわすことを選択する場合もある。
困難6	目的を見出して生きる	この人生、この現実に戻ってきたのには理由があると信じている。自分には特別な目的があると感じているが、それが何かを明確に見出している人は少数である。臨死体験からのメッセージやそこから学んだことに従って生きたいと強く望み、自分の使命を遂行できないことを恐れる。

(Stout, Y.M., Jacquin, L.A., & P.M.H., Atwater (2006). Six major challenges faced by near-death experiencers. *Journal of Near-Death Studies*, 25(1), 49-62. より発表者作成) 注) 困難の種類1～6は原文に基づいて発表者訳出

